

2025（令和7）年度
事業報告書

自 2025年4月 1日
至 2026年3月31日

公益財団法人日本デザイン振興会

グッドデザイン賞等事業 編

公益目的事業 1

(グッドデザイン賞に関する応募、審査、受賞対象の発表、表彰に係る事業)

1. グッドデザイン賞事業

2025年度グッドデザイン賞は、昨年度に引き続き審査委員長に齋藤精一氏、審査副委員長に倉本仁氏、永山祐子氏を迎えた。2024年度のフォーカス・イシューから導き出された2025年度のテーマとして「はじめの一步から ひろがるデザイン」が示された。一人の人のぶれない強い意志が、最初は小さな一歩でも、やがて周囲を巻き込んで所属する企業・組織全体や行政までも動かして、社会を変えるような大きな動きに繋がって、数々の優れたデザインが生まれるようになっている。一人のデザイナーが最初の意志を貫いて、最終的なデザインまでに落とし込むには、様々な困難を伴うことが予想されるが、そこを諦めずに頑張してほしい、という応援メッセージとして示し、審査に臨んだ。



① 応募と受賞

2025年度グッドデザイン賞は4月1日に応募受付を開始した。応募期間中は、グッドデザイン賞の理念や応募方法を解説する説明会や個別相談会をオンラインで実施したほか、国内12箇所で説明会を実施した。また、審査の視点を審査委員自らが解説するセミナーを計4回開催した。なお、2024年1月に発生した能登半島地震からの復興を支援する目的で、石川県からの応募については、審査費用などを免除する特例措置を昨年度に引き続き設けた。応募総数5,225件のデザインに対して審査を行い、10月15日に1,619件の受賞およびベスト100ならびに大賞、経済産業大臣賞、金賞、グッドフォーカス賞の特別賞を発表した。

また、2025年日本国際博覧会に関連した受賞対象の中から、特に優れた1件を「未来社会デザイン特別賞」として選出し発表した。

審査対象数：5,225件

受賞数：1,619件

受賞企業数：1,142社

特別賞の内訳

グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）：1件

グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）：3件

グッドデザイン金賞（日本デザイン振興会会長賞）16件

グッドフォーカス賞【新ビジネスデザイン】：3件

（経済産業省 大臣官房 商務・サービス審議官賞）

同【技術・伝承デザイン】：3件（中小企業庁長官賞）

同【地域社会デザイン】：3件（日本商工会議所会頭賞）

同【防災・復興デザイン】：3件（日本デザイン振興会会長賞）

未来社会デザイン特別賞：1件（日本デザイン振興会会長賞）



グッドデザイン賞二次審査会場（幕張メッセ）

② 審査体制

多様な応募対象を適切に審査するため、マネジメントレベルのインハウスデザイナー2名を含む国内外の様々な領域の専門家を迎え、総勢94名の審査委員会となった。また、インテリアデザインの重要性の明確化と産業の活性化を図るため、新たに「インテリア空間」のカテゴリーを新設した。応募情報に基づいた一次審査、現物もしくは代替物に基づいた二次審査、および特別賞候補としての「グッドデザイン・ベスト100」選考、特別賞審査の最終プロセスとして、「ベスト100プレゼンテーション審査」および特別賞審査会を実施した。



グッドデザイン賞二次審査会

③フォーカス・イシュー

フォーカス・イシューは、グッドデザイン賞受賞対象の中から、今後の社会におけるデザインの役割と可能性を見出す取り組みである。2025年度は、昨年度に引き続き正副委員長3名が自らディレクターとなり、外部から文化人類学者、経営者、メディア編集者をリサーチャーとして招き、計6名が応募作品を横断的に見て、デザインの役割と可能性について思索を重ねた。最終的にこれからの社会に求められる具体的な行動を提案する6つの「提言」としてまとめ、公開した。また、2026年3月2日に半日にわたるトークイベントを開催。5つのメディア/デザインイベントとのコラボレーションにより、イシューディレクター/リサーチャー、登壇者、外部モデレーターの3者トークを計6セッション実施。フォーカス・イシューの読者層と親和性の高い外部プレイヤーと連携することで、情報の拡散および新たな接点の創出を図った。

■2025年度フォーカス・イシュー・ディレクター
齋藤精一（2025年度グッドデザイン賞審査委員長）
倉本仁（2025年度グッドデザイン賞審査副委員長）
永山祐子（2025年度グッドデザイン賞審査副委員長）

■2025年度フォーカス・イシュー・リサーチャー
太田直樹（共創パートナー・経営者）
中村寛（文化人類学者・デザイン人類学者）
林亜季（編集者・記者・経営者）

④グッドデザイン・ベスト100

グッドデザイン賞受賞対象の中で、20のカテゴリーにおいてそれぞれ特に高い評価を得た5件を「グッドデザイン・ベスト100」として選出した。これらは今後の各分野を先導する起点となりうるデザインに位置づけられるものである。さらに各カテゴリー最上位の20件をグッドデザイン金賞として選出した。

⑤グッドデザイン大賞

グッドデザイン大賞は、各カテゴリーの最上位である金賞20件の中から1件が選ばれ、テーマ性・時代性・社会性などの面でその年度のシンボルとなるデザインとして位置付けられる。特別審査会における合議・投票の結果、坂茂建築設計株式会社の「DLT木造仮設住宅」に決定し、10月15日に発表した。

⑥みんなの選んだグッドデザイン

受賞展会場において一般来場者のデザインへの関心を高める機会を提供するため、投票イベントとして「みんなの選んだグッドデザイン」を実施した。金賞20件を対象に受賞展来場者の投票によって株式会社豊島屋の「鳩サプレー 1枚入缶」が選出された。

⑦GOOD DESIGN EXHIBITION 2025

受賞プロモーションのメイン企画として、2025年度グッドデザイン賞受賞デザイン全件展示、「グッドデザイン・ベスト100」特別展示、審査委員による「私の選んだ一品」展示、ロングライフデザイン賞受賞展示、「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」のポップアップショップ出店、タイのデザイン賞の特別

事-P.2



フォーカス・イシュー・レポート



ベスト100選考会



大賞「DLT木造仮設住宅」



みんなの選んだグッドデザイン「鳩サプレー 1枚入缶セット」

展示、審査委員や受賞者によるトークイベントなどを実施した。つさらに「みんなの選んだグッドデザイン」投票ブースを設け、投票を受け付けた他、展示会場各所にはスタンプ台を設け、楽しみながら展示を回遊できる「スタンプラリー」も実施した。

会期：11月1日～5日

会場：東京ミッドタウン各所

総来場者数：34,859人

会場デザイン：オンデザイン

グラフィック：菊地 敦己



GOOD DESIGN EXHIBITION 2025会場風景

⑧受賞祝賀会

東京都江東区の東京ガーデンシアターに受賞者および審査委員を招き受賞祝賀会を実施した。グッドデザイン大賞ほか特別賞各賞の表彰、および「みんなの選んだグッドデザイン」の発表などを行った。

会期：11月4日

会場：東京ガーデンシアター（江東区有明）

参加者：2,300名



受賞祝賀会ステージ（東京ガーデンシアター）

⑨私の選んだ一品 2025展

2025年度を受賞デザインから、全審査委員（ロングライフデザイン賞審査委員含む）が選んだお気に入りの「一品」81点とメッセージを、「ときめき」「おどろき・気づき」「わくわく」をテーマとする3期に分けて紹介。展示と共に一品や個人的な関心をテーマにしたトークイベントも14回実施した。

会期：第1期 10月15日～27日

第2期 10月29日～11月9日

第3期 11月11日～23日

会場：GOOD DESIGN Marunouchi



私の選んだ一品展（GOOD DESIGN Marunouchi）

⑩受賞年鑑出版

2025年度受賞年鑑『GOOD DESIGN AWARD 2025』を、2026年4月に発刊した。本年度より受賞年鑑は「グッドデザイン・ベスト100」「グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」「グッドデザイン・ニューホープ賞」「フォーカス・イシュー」を特にフィーチャーした薄版冊子「GOOD DESIGN AWARD 2025 Special Awards and Best 100」と受賞対象全件を掲載した厚版冊子「GOOD DESIGN AWARD 2025」の2冊セットの形式に全面リニューアルした。薄版冊子は単独で書店でも販売し、グッドデザイン賞のハイライト部分を、手軽に親しむことができるようにすることを目指した。



受賞年鑑『GOOD DESIGN AWARD 2025』

＜資料＞グッドデザイン大賞・金賞・特別賞

グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）

- ・DLT木造仮設住宅／坂茂建築設計＋株式会社家元＋株式会社長谷川萬治商店

グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）

- ・レンズ交換式ミラーレスカメラ Sigma BF／株式会社シグマ
- ・ナトリウムイオンモバイルバッテリー／エレコム株式会社
- ・重粒子線治療装置 CI-1000／株式会社東芝＋東芝エネルギーシステムズ株式会社

グッドデザイン金賞（日本デザイン振興会会長賞）

- ・ハンカチーフ クラシクス・ザ・スモールラグジュアリ／ブルーミング中西株式会社
- ・歩行器（歩行車） バイエーカー カーボン・ウルトラライト／バイエーカー・エーピーエス
- ・防振双眼鏡 STABILIZED 10x25 S / 12x25 S／株式会社ニコンビジョン
- ・減塩サポート食器 エレキソルト スプーン、エレキソルト カップ／麒麟ホールディングス株式会社
- ・コードレス掃除機 Dyson PencilVac Fluffycones™／ダイソン株式会社
- ・透水コンクリート型枠パネル ドットコンプラス／PUMPMAN株式会社
- ・縦スタンド型送水口（F型）認定番号 FDC-011号／株式会社立売堀製作所
- ・電気自動車 AIM EVM／エイム株式会社
- ・街区再開発による複合住宅群 ニシイケバレイ／株式会社須藤剛建築設計事務所
- ・Ginza Sony Park Project（銀座ソニーパークプロジェクト）／ソニー企業株式会社＋ソニーグループ株式会社
- ・水都・三島を再生 都市と農村を結ぶ水の道／特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
- ・玉川高島屋S・C 西館ストリート／フードコート「P」／株式会社DDAA＋東神開発株式会社
- ・鳩サブレ 1枚入缶 鳩サブレ 1枚入缶セット／株式会社豊島屋
- ・Webサービス レボサク／エゾウィン株式会社
- ・活動 牧場を通じた地域共育型デザイン／砂谷株式会社
- ・新しい公園づくり 千代田区公園基本方針2025＋公園リニューアル／千代田区＋国際航業株式会社ほか

グッドフォーカス賞［新ビジネスデザイン］（経済産業省大臣官房商務・サービス審議官賞）

- ・離島振興活動 しまあめラボ／福井工業大学
- ・Next Artisan, a new way to preserve traditional rush weaving art／Taiwan Yuan-Li Handiwork Association
- ・The Misanthrope Society The Misanthrope Society／UNME DESIGN CO., LTD.

グッドフォーカス賞［技術・伝承デザイン］（中小企業庁長官賞）

- ・セーター THIS IS A SWEATER.／米富繊維株式会社
- ・食器 精成舎 うづらシリーズ／株式会社224
- ・かすがい プレートかすがい／株式会社タナカ

グッドフォーカス賞［地域社会デザイン］（日本商工会議所会頭賞）

- ・大日止鼻小水力発電所／株式会社リバー・ヴィレッジ＋株式会社Takebayashi Landscape Architects
- ・グラングリーン大阪（うめきた公園サウスパーク等先行開業区域）／三菱地所株式会社ほか
- ・水仙産地の風景を未来につなぐプロジェクト ノカテ／合同会社ノカテ

グッドフォーカス賞［防災・復興デザイン］（日本デザイン振興会会長賞）

- ・消火器 OF1 LIQUID／ヤマトプロテック株式会社
- ・地域密着型特別養護老人ホーム、保育所等 六郷キャンパス／ライフの学校＋トミトアーキテクチャほか
- ・学校断熱ワークショップ／株式会社エネルギーまちづくり社＋東京大学工学系研究科建築学専攻ほか

未来社会デザイン特別賞（日本デザイン振興会会長賞）

- ・木造建築物 大屋根リング／公益社団法人2025年日本国際博覧会協会＋藤本壮介建築設計事務所ほか

<資料> 正副審査委員長メッセージ

はじめの一步から ひろがるデザイン

デザインは、一体どこから始まるのか？

生み出されたデザインは、

誰によって育まれどのように社会に出ていくのか？

今年度のグッドデザイン賞では、それをもっと知りたいと思う。



齋藤精一 審査委員長

私はかねてより、プロダクトデザインのような「モノのデザイン」とソーシャルデザインのような「コトのデザイン」を分けて考えることはできず、モノのデザインの裏側には物語＝コトのデザインがあり、コトのデザインのアウトプットにはたくさんのモノのデザインが存在すると言いつつ続けています。そして、過去10年間グッドデザイン賞の審査に携わるなかで、これはあらゆるデザインに対して言えることだと確信しています。このことをあらためて2025年度グッドデザイン賞のメッセージに掲げられるのは、二元論的に語られてきたモノとコトのデザインが、今ようやく融合して考えられるようになってきているからだ強く感じています。

本年度のテーマである「はじめの一步から ひろがるデザイン」は、昨年度のフォーカス・イシューの議論から導き出されました。2023年度は「アウトカムがあるデザイン」、2024年度は「勇気と有機のあるデザイン」をテーマに掲げ、私たちは今後どちらの方向に進むべきか、そのためにはどのようなプロセスが必要なのかを考え、今あるべきデザインを探してきました。

過去の膨大な受賞デザインから見てきたのは、すべてのデザインの源流ともいえる、創り出す人の想いの重要性和、それを実現まで推し進める力を持ったプロセスの強度でした。さまざまな既存のシステムが飽和状態に達し、これまでの方程式を疑う必要がある今だからこそ、新たな視点を持って、本当に必要とされる美しくしなやかなデザインを生み出すことが、すべての分野で期待されていると感じます。言い方を変えれば「デザインが時代を追いかける時代（マーケティング重視の時代）」から、「"より良いものを創り出すデザインという行為"が社会を牽引する時代」に確実に踏み出したと考えられます。

「はじめの一步から」は、そんな新たな視点を実装する"熱量を持った個"が社会との接点で見出す行為を肯定することを意味し、「ひろがるデザイン」はそれを企業や団体の中で尊重し、それぞれの能力を持ち寄って創り上げる力を意味しています。

応募の際には、最終成果物としてのデザインだけではなく、ぜひその成果物が生まれた経緯やプロセスに含まれるデザインも表現していただくと幸いです。本年度もたくさんのデザインにお会いできることを審査委員一同楽しみにしています。

意思を耕す

今年もグッドデザイン賞が始まります。私は常々、デザインは人と事物、そして周辺環境とのより良い調和を見つける行為であると考えています。そしてその調和の姿は社会背景や技術革新を反映しながら常に変化し続けています。グッドデザイン賞も多様な世相を反映して変容しながら、時代の価値観を映し出し、その瞬間の「Good」を表してきた運動といえるでしょう。

新たな未来を思い描くことは作り手の大きな喜びであるとともに、膨大なエネルギーを必要とする大仕事です。画期的な研究やアイデアを製品・サービスとして具現化し、社会に浸透して活用されるような事物の多くは企業や組織の優れたチームワークによって成されていますが、元をたどると誰か個人の想い、「はじめの一步」から展開されているのだと、あらためて思うのです。声を上げる個人の勇気と強い意思でアイデアが提起され、それを受け止める形で企業や組織が有機的に協力し、社会に実装される大きなうねりへと発展させる。審査にあたっては、そうした個人の意思の尊さを積極的に読み解き、またそれを組織がどのように展開して世の中に表明したのかにも注目したいと思います。

「意思」の視点・視野・視角も重要であり、作者や企業の理念がどのように耕され、応募プロジェクトの発意に至ったのかにも興味があります。応募される皆さんの熱意に応えるため、より深く作り手の「意思」を理解するために、審査方法も試行錯誤を繰り返し、社会とデザインの関係性の変化に合わせて更新を行っています。グッドデザイン賞という運動が時代の価値観を測る「ものさし」になれることを願い、今年も皆様のすばらしいデザインに出会えることを楽しみにしています。

その一步をチャンスに

過去2年のメッセージでは、「デザインの力」（2023）、「デザインの力の向かう先」（2024）と題し、特にその年度にグッドデザイン賞を通して考えを深めてみたいと思ったことを書きました。そして、実際にデザインの力が社会に与える影響を見つめてきました。今年度のグッドデザイン賞のテーマは「はじめの一步から ひろがるデザイン」。デザインがはじまる原点から、どのような力を得て広がっていったかを見たいという思いが込められています。

昨年度のフォーカス・イシューで、私は「巻き込み力」と「巻き込まれ力」という言葉で、原点を作り出す人、それぞれのスキルでそこから実現に向けて力強く推進していく人の役割について表しました。どのプロジェクトも、この両方の力があつたからこそ実現しているのですが、まさに昨年度の受賞作品にはそのような好事例が多く見受けられました。

1970年の大阪万博から55年経った今年、2度目の大阪・関西万博が開催されます。前回の万博は「奇跡の万博」と言われており、若い建築家、アーティスト、クリエイターが多く参加し、来たる明るい未来に向けた想いを形にし、多くの来場者がそれに共感しました。この度の万博はその時とは少し様子が異なり、開催前から今の時代においての意義が問われています。しかし、日本は開催国として名乗りを挙げ、選ばれ、「はじめの一步」を踏み出しました。その一步を無駄にしないために、私を含め関係者はみな、全力を尽くしています。この一步に意義を与え、チャンスにするかは巻き込まれた私たちにかかっているのだといえます。

グッドデザイン賞は誰かが諦めなかったものだけが並ぶ賞です。そして、そのプロセスの共有は次にアクションを起こそうとしている人たちの背中を押します。ぜひ自らのデザインの過程やストーリーを多くの人と共有し、次なる力を生み出すために、今年度もたくさんの方に応募をしてほしいと考えています。いずれにしても多くの労力をかけなければ正しき道を見つけれず、そこからまた沢山の労力をかけてデザインをし、やっとゴールを目指すしかありません。1人では限界はそこまでですが、多くの人のトライ＆エラーが共有されればもっと早くそして遠くにゴールを設定することができるはず。それがこの賞の意義だと考えています。

皆でアイデアを寄せ合い、そのプロセスを共有し、他の誰かのヒントになる——今年のグッドデザイン賞がそうした場になることを願っています。「勇気と有機のあるデザイン」をテーマに、デザインプロセスの中で、どのように困難に立ち向かい有機的に勇気を持って乗り越えたのか、ぜひ応募作を通じて共有していただければと思います。



倉本 仁 審査副委員長



永山祐子 審査副委員長

2025年4月1日

<資料>審査委員会

審査委員長 齋藤 精一（クリエイティブディレクター）
審査副委員長 倉本 仁（プロダクトデザイナー）／永山 祐子（建築家）

ユニット1：身につけるもの

- 本多 沙映 デザイナー、アーティスト
- 安東 陽子 テキスタイルデザイナー／コーディネーター
- 濱田 芳治 プロダクトデザイナー
- 本田 敬 プロダクトデザイナー

ユニット4：生活用品

- 石橋 忠人 プロダクトデザイナー
- 北川 大輔 プロダクトデザイナー
- Jian Zhang マーケット・リサーチ・アナリスト
- 辰野 しずか クリエイティブディレクター／デザイナー
- 安西 葉子 デザイナー

ユニット7：情報機器

- 宮沢 哲 プロダクトデザイナー／デザインディレクター
- 緒方 壽人 デザインエンジニア
- 玉井 美由紀 CMFデザイナー
- Baonan Du プロダクトデザイナー
- 安井 重哉 UIデザイン研究者

ユニット10：家具・オフィス／公共 機器設備

- 田淵 智也 デザイナー
- Edward Barber インダストリアルデザイナー
- 小林 マナ インテリアデザイナー
- 田子 學 アートディレクター／デザイナー

ユニット13：建築（中～大規模集合・共同住宅）

- 板澤 麻利 建築家
- 千葉 学 建築家
- 仲 俊治 建築家
- 羽鳥 達也 建築家

ユニット16：インテリア空間

- 五十嵐 久枝 インテリアデザイナー
- 大野 力 建築家
- 窪田 茂 建築家／空間デザイナー
- Shu-chang Kung 建築家／インテリアデザイナー
- 吉田 愛 建築家

ユニット19：地域の取り組み・活動

- 内田 友紀 都市デザイナー
- 岩瀬 諒子 建築家
- 木住野 彰悟 アートディレクター／グラフィックデザイナー
- 新山 直広 クリエイティブディレクター
- Li-Chin Kuo キュレーター／コミュニティ・プランナー

ユニット2：パーソナルケア用品

- 鈴木 元 プロダクトデザイナー
- 秋山 かおり プロダクトデザイナー
- 石川 慶文 デザインディレクター
- 鈴木 啓太 プロダクトデザイナー

ユニット5：生活家電／調理家電

- 中坊 杜介 プロダクトデザイナー
- Shikuan Chen プロダクトデザイナー
- 平川 真紀 プロダクトデザイナー
- 松本 博子 デザインディレクター
- 山崎 宣由 プロダクトデザイナー／UXデザイン研究者

ユニット8：産業／医療 機器設備

- 村上 存 設計工学研究者
- 石川 善樹 予防医学研究者
- 重野 貴 プロダクトデザイナー
- 手嶋 りか プロダクトデザイナー

ユニット11：モビリティ

- 根津 孝太 クリエイティブコミュニケーター
- 内田 まほろ キュレーター
- 木村 雅彦 デザイナー
- 山本 卓身 プロダクトデザイナー
- Rudi Budiman インダストリアルデザイナー

ユニット14：建築（産業／商業施設）

- 成瀬 友梨 建築家
- 五十嵐 太郎 建築評論家
- 色部 義昭 グラフィックデザイナー／アートディレクター
- 丸山 優子 建築プロジェクトマネジャー

ユニット17：メディア・コンテンツ

- 森内 大輔 デザイナー
- 鹿野 護 デザイナー
- 佐々木 康晴 クリエイティブディレクター
- Praseuth Banchongphakdy コミュニケーション・デザイナー
- 宮田 裕美詠 グラフィックデザイナー

ユニット20：一般向けの取り組み・活動

- 廣田 尚子 デザインディレクター
- 西川 日満里 建築家
- 田中 みゆき キュレーター／社会福祉士
- ムラカミ カイエ デザイナー／クリエイティブディレクター

ユニット3：文具・ホビー

- 佐々木 千穂 エクスペリエンスデザイナー
- Amonthep Kachanonda クリエイティブデザイナー
- 宇南山 加子 プロダクトデザイナー／空間デザイナー
- 辛島 隆 プロダクトデザイナー
- 山本 和豊 デザイナー

ユニット6：映像／音響機器

- 三宅 一成 デザイナー
- 川上 典孝子 ジャーナリスト
- Jae-han Jin インダストリアルデザイナー
- 清水 久和 プロダクトデザイナー
- 堀田 峰布子 サーキュラーエコノミー統括

ユニット9：住宅設備

- 寺田 尚樹 建築家／デザイナー
- 佐藤 弘喜 デザイン学研究者
- 松澤 剛 デザインエディター
- Mårten Claesson 建築家／プロダクトデザイナー

ユニット12：建築（戸建て住宅～小規模集合・共同住宅）

- 原田 真宏 建築家／大学教授
- 伊藤 博之 建築家
- 岩月 美穂 建築家
- 倉方 俊輔 建築史家

ユニット15：建築（公共施設）・土木・景観

- 伊藤 香織 都市研究者
- 川西 康之 建築家／デザイナー／ファシリテーター
- Xiaodi Zheng ランドスケープアーキテクト
- 西田 司 建築家
- 西村 浩 建築家／クリエイティブディレクター

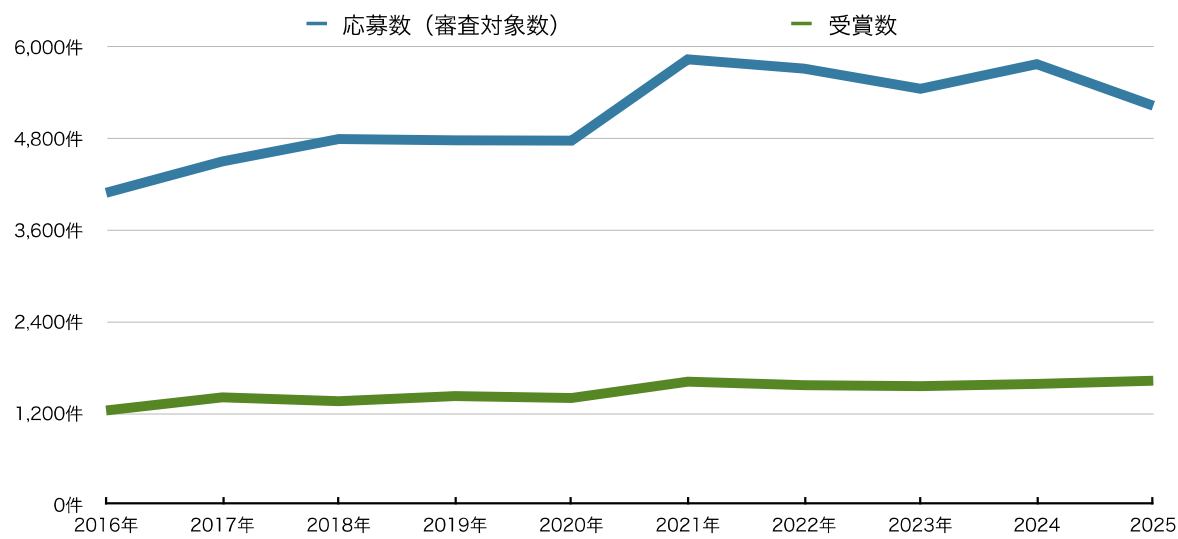
ユニット18：システム・サービス

- 長田 英知 ストラテジスト
- 左右田 智美 エクスペリエンスデザイナー
- 関 治之 シビックハッカー
- Hong Khai Seng
- 水野 祐 弁護士

●＝ユニットリーダー

<資料>事業実績

グッドデザイン賞応募数・受賞数の推移



国内 都道府県別受賞件数

北海道	10	埼玉県	41	岐阜県	15	島根県	3	佐賀県	6
青森県	2	千葉県	15	静岡県	17	鳥取県	2	長崎県	3
岩手県	5	東京都	724	愛知県	58	岡山県	5	熊本県	4
宮城県	4	神奈川県	82	三重県	5	広島県	13	大分県	4
秋田県	2	新潟県	21	滋賀県	7	山口県	2	宮崎県	1
山形県	3	富山県	7	京都府	30	徳島県	0	鹿児島県	4
福島県	5	石川県	12	大阪府	166	香川県	1	沖縄県	1
茨城県	11	福井県	7	兵庫県	33	愛媛県	1		
栃木県	3	山梨県	5	奈良県	8	高知県	0		
群馬県	6	長野県	18	和歌山県	4	福岡県	22		

海外 国・地域別受賞件数

オーストリア	2	中国	191	デンマーク	1
香港	18	インド	4	インドネシア	8
ラオス	5	マレーシア	3	オランダ	6
シンガポール	9	韓国	21	台湾	96
タイ	23	アメリカ合衆国	13	日本	1,230

<資料>スケジュール

4月1日 - 5月22日	応募受付期間
6月4日 - 6月30日	一次審査期間
7月1日	一次審査結果通知
7月9日 - 8月25日	二次審査期間
8月6日 - 8月8日	二次審査会、ベスト100選考会
8月26日	二次審査結果通知
9月19日	グッドデザイン・ベスト100 プレゼンテーション審査 特別賞審査会
10月15日	受賞発表
10月15日 - 11月23日	「私の選んだ一品」展
11月1日 - 5日	GOOD DESIGN EXHIBITION 2025
11月4日	受賞祝賀会
2026年4月	年鑑「GOOD DESIGN AWARD 2025」発刊



⑪オウンドメディアによる情報発信

グッドデザイン賞の受賞対象と受賞者を紹介し、デザインへの関心を高め、グッドデザイン賞のファンを増加させることを主な目的としながら、デザイン全般に関する情報についても親しみやすい形で提供することにより、デザインの普及啓発にも寄与することを目的として、各種情報発信活動を展開している。

オウンドメディア「.g Good Design Journal」では、グッドデザイン賞の最新情報を随時紹介する「GOOD DESIGN REPORT」、グッドデザイン賞受賞者を訪ねデザインの裏側について明らかにする「グッドデザイン探訪」、デザインの素朴な疑問をやさしく解説する「デザインの？（ハテナ）」の4本の連携を日英両言語で掲載している。

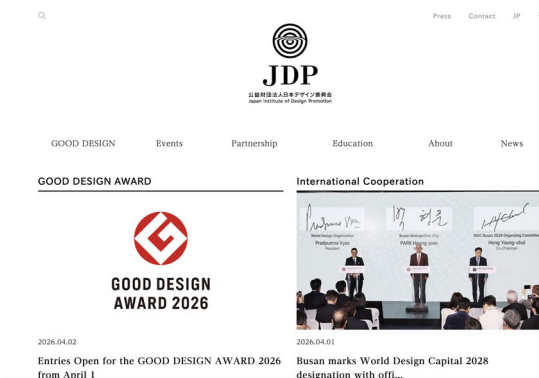
「Instagram」では、グッドデザイン賞受賞対象を1日1件ずつ紹介する記事を掲載し、フォロワー数は前年度より7千人強増加し、6万8千人を超えた。「Facebook」もフォロワー数が4万人強を数えるほか、「note」（フォロワー数1万1千人強）、「YouTube」（登録者数9千人弱）、「グッドデザイン賞公式メールマガジン」（登録者数1万7千人強）でも継続的な情報発信を行なっている。



.g Good Design Journal

⑫海外に向けた情報発信

グッドデザイン賞やJDPの活動の海外での認知拡大に向け、JDPウェブサイトの英語コンテンツを安定的にアップしているほか、LinkedinのJDPアカウントを新たに作り、英語での情報発信を継続している。また、中国・台湾を中心とした現地メディアとの連携による広報も継続した。中国ではデザインメディア「日本設計小駅」と連携し、応募期から受賞発表期まで、オンラインセミナーや特集記事等を通じて、グッドデザイン賞の応募情報や受賞対象の価値を発信した。台湾ではカルチャー誌「秋刀魚」と協力し、特集ページ等による情報発信に加え、ポッドキャスト番組の制作を継続した。同番組では、台湾のインフルエンサーや日本のデザイナーをゲストに迎え、対談形式で日本のデザインや生活文化を紹介している。2025年度までに5シーズン、計42回のエピソードを配信し、平均ダウンロード数は約1.47万回を超えた。受賞発表時には、公式ウェブサイト、SNS、メールニュースを組み合わせ受賞情報を発信し、海外における受賞認知の拡大を図った。



JDPウェブサイト 英語ページ



台湾「秋刀魚」ポッドキャスト

2. ロングライフデザイン賞事業

2025年度ロングライフデザイン賞は118件の応募から11件が受賞した。受賞全社に対してインタビューを行いグッドデザイン賞のウェブサイトと年鑑で記事を公開したほか、事業分野が関係する複数受賞者の開発当事者を招いた公開トークイベントを受賞展で開催した。

ロングライフデザイン賞審査委員会

齋藤 精一 クリエイティブディレクター

倉本 仁 プロダクトデザイナー

永山祐子 建築家

菊地 優里 fennicaディレクター

黒川 光晴 株式会社虎屋 代表取締役社長



ロングライフデザイン賞受賞展

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞（日本デザイン振興会会長賞）

- ・多目的ライター CR-チャッカマン／株式会社東海
- ・カトラリー クチポール／株式会社日曜社
- ・スチームトースター バルミューダ ザ・トースター／バルミューダ株式会社
- ・スツール エレファント スツール／Vitra株式会社
- ・電子ピアノ クラビノーバ CLPシリーズ／ヤマハ株式会社
- ・乗用車 デリカシリーズ／三菱自動車工業株式会社
- ・自動火災報知設備・発信機 リング型表示灯付発信機／能美防災株式会社
- ・宅配ロッカー フルタイムロッカー／株式会社フルタイムシステム
- ・ホームセキュリティ セコム ホームセキュリティ／セコム株式会社
- ・モバイルデバイスによる交通系ICサービス モバイルSuica／東日本旅客鉄道株式会社
- ・屋上緑化工法 アクアソイル工法／株式会社イケガミ

3. 国際連携事業

JDPとしての国際的なプレゼンスの強化と、日本デザインの価値を海外に発信する取り組みとして、幅広い地域での連携活動を展開した。

アジア地域では、4月にMalaysia Design Council（MRM）および日本アセアンセンターとの三者間でLOI（Letter of Intent）を締結し、マレーシアとのデザイン振興分野における連携の基盤を整えた。台湾国際学生デザインコンペティション（TISDC）におけるJDP賞の贈呈も継続しており、アジアにおける次世代デザイン人材の育成支援にも貢献した。12月には台北にてグッドデザイン賞の受賞報告会を開催し、多数の現地デザイン関係者の来場のもと、グッドデザイン賞の価値や受賞作品の魅力を発信した。

欧州では、9月のWDO総会に合わせてロンドンに渡航し、Japan House London、Royal College of Art、D&ADなどを訪問して今後の協力の可能性について意見交換を行い、将来的な連携に向けた関係構築を進めた。

中東では、12月にUAEからの招きによりアブダビを訪問し、National Project Officeに対してJDPの活動およびグッドデザイン賞に関するプレゼンテーションを実施。デザインを通じた国づくりに取り組むUAE側と、今後の連携の枠組みについて協議を開始した。

また、2025年度グッドデザイン賞では中国・台湾・韓国からの審査委員に加え、イギリスおよびスウェーデンから各1名のデザイナーを審査委員として招聘し、審査における国際的な視点の拡充を図った。

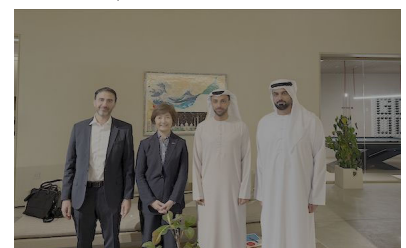
こうした活動を通じ、アジアを基盤としつつ、欧州・中東にも広がるデザイン連携ネットワークの一層の拡充を図った。



台湾国際学生デザインコンペティション



ロンドンJapan House 訪問



UAE National Project Office 訪問

また、JDP職員の津村真紀子がWDOの次期理事長（President-Elect）に立候補し、9月の総会における選挙で当選した。2027年9月に韓国・ソウルで行われる次回の総会において理事長（President）に就任する。

デザイン賞連携・運営支援

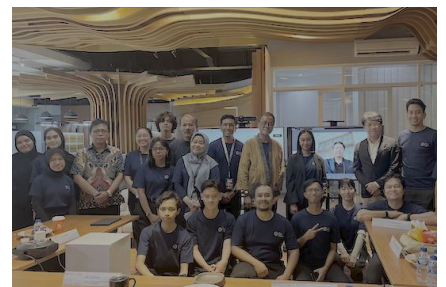
2025年度のデザイン賞連携においては、タイ、インドネシア、シンガポールの各国審査会に日本人審査委員の派遣を行い、各国の審査委員との対面議論を通じて連携を強化した。日本で8月に開催したグッドデザイン賞二次審査会には、賞連携委員としてタイ・インドネシア・シンガポール・フィリピン・ラオスから審査委員が来日し、国際的な視点での活発な議論と交流が行われた。また、ドイツのGerman Design CouncilおよびタイのDITP（国際貿易振興局）から担当者がグッドデザイン賞の審査プロセスの視察に訪れるなど、海外のデザイン振興機関からの関心の高まりもみられた。2025年度は賞連携各国から計43件の受賞があり、受賞展ではタイの特設コーナーを設置し、優れたデザインの特徴や価値を来場者に紹介した。これらの取り組みにより、国際的なデザイン賞ネットワークの維持・深化に貢献した。



German Design Council来日



タイDesign Excellence Award審査会



インドネシアGood Design Indonesia 審査会

4. 広報・情報提供事業

日本デザイン振興会では、様々なパートナーと連携し、場の提供を通じたプロモーション活動を積極的に行っている。2015年から開設しているGOOD DESIGN Marunouchiは、10周年を迎え、自主および共同、外部企画による展示会などを通じて様々なステークホルダーとともにデザインが持つ社会的価値を広く訴求している。

GOOD DESIGN Marunouchi

2025年度8月に累計来場者数が60万人を突破、24年度末より開催した公募企画展「たーんと、学ぼう。ごはんのデザイン」を皮切りに、独自企画展7本、外部企画9本の合計16企画を開催、年間7万人が来場した。

また、三菱地所株式会社の協賛を得て、日本の山と木が抱える課題を解くデザインと技術をプロモーションする展覧会「山と木と東京」は2年目を迎え、丸キューブ（丸ビル1F）で3日間のマルシェイベントを開催。東京ミッドタウン八重洲を含む4会場+フォーラムを開催し、延べ約1.3万人を動員した。

グッドデザイン賞関連では、歴代および最新の受賞デザインの展示を行ったほか、審査委員が受賞デザインからお気に入りの“一品”を選び紹介する恒例の「私の選んだ一品」では、展示に合わせて14本のトークイベントを実施した。

初の展覧会として、日本最大級のクラフトコンペである「工芸都市高岡クラフトコンペティション」の東京展や、アズビル株式会社の企業のデザインを伝える展覧会「見えない計測展」等を開催した。

5回目となる展示企画の公募には38企画が応募され、「押し活のデザイン展」を選出し3月末から開催した。



GOOD DESIGN Marunouchi

自然や文化など、地域資源に根ざしたデザインに取り組む全国のクリエイターを紹介するオンラインプログラム「山水郷チャンネル」は年間12回の配信を行い、そのデザインに触れられる機会として5回目となる「山水郷のデザイン展」を開催した。



山と木と東京展 マルシェイベント



山水郷のデザイン展5 コモンの再生



見えない計測展

2025年度開催のGOOD DESIGN Marunouchi企画展示

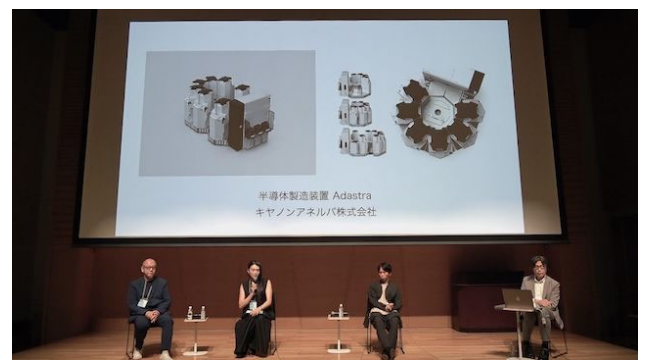
会期	名称	実施主体	入場者数
3/22 - 4/27	たーんと、学ぼう。ごはんのデザイン	TBWA HAKUHODO	15,123
5/1 - 5/31	山と木と東京 TOKYO WOOD LIVING 2040	JDP	12,982
6/7-7/12	かたちと暮らす	JDP	7,520
7/19-30,8/20-30	夏のデザイン	JDP	4,968
8/2-8/16	藝大生の考えるGOOD DESIGN/オルタナティブG ～東京藝術大学デザイン科成果展～	東京藝術大学デザイン科	2,565
9/4-10/4	山水郷のデザイン5 コモンの再生	JDP	3,813
10/15-11/23	グッドデザイン賞審査委員セレクション わたしの選んだ一品	JDP	13,470
11/26-12/4	Dining Chair Exhibition 2025 シン展	多摩美術大学 建築・環境デザイン学科	1,064
12/6 - 12/16	グッドデザイン燕三条	燕三条地場産業振興センター	7,221
12/18-27	高岡クラフトコンベ東京展	高岡商工会議所 商工観光課	397
10/16-11/27	グッドデザイン賞審査委員セレクション わたしの選んだ一品	JDP	9,549
1/9 -1/20	見えない計測展	アズビル株式会社	5,873
1/23-2/1	すてるデザイン～サステナブルな未来へ向けた、布石と知恵～	多摩美術大学	1,768
2/4-2/14	大丸有フォトアーカイブ「まちの魅力」	エコツェリア協会	1,155
2/16-2/25	サステナブル・ブランド国際会議2026 東京・丸の内」	株式会社 博展	2,045
3/2-3/13	PVC Award 2025 展示会・東京	塩ビ工業・環境協会 ほか	2,032
3/15-3/25	日本空間デザイン賞2025	日本商環境デザイン協会・日本空間デザイン協会	1,365
3/28-4/26	「推し活のデザイン展」	推し活のデザイン展実行委員会	

「山水郷チャンネル」配信実績（Youtube 総視聴回数 16,102回）

#115	高須賀活良（アーティスト・アートディレクター）	#121	吉田田タカシ（教育者、デザイナー、ミュージシャン）
#116	道城牧人ピーター（ナッツの伝道師／「Going Nuts!」オーナー）	#122	2025年をふりかえる <山水郷チャンネル年末放談>
#117	上野莉歩（cafe & HASH BA わたしの素ペース 店主／階上町地域おこし協力隊）	#123	広本理絵（アートディレクター・デザイナー）
#118	阿部正幸（株式会社山海畑 代表取締役／東北食べる通信 発行人・編集長）	#124	安藤里実（株式会社まどをひらく代表／グラフィックデザイナー・アートディレクター）
#119	多木陽介（批評家）	#125	原田祐馬（株式会社UMA/design farm代表／デザイナー）
#120	高橋真太郎（鳥取県立図書館 支援協力課 課長）	#126	福田まや（星庭／アートディレクター・グラフィックデザイナー）

5. 地方自治体等との連携事業

港区立産業振興センターとの協力関係のもと、イベント「DESIGN VISION 2025 - Communication & Construction -」を2025年8月27日に開催した。グッドデザイン賞受賞4社のプレゼンテーションと受賞ベンチャーによるピッチを実施。デザインの力が産業・社会の構築と人・企業・地域をつなぐコミュニケーションをどのように支えるか探求し、デザインを軸とした新たな価値創造を促進するとともに、同センターが地域におけるデザインの結節点の役割を果たし、デザインを通じた産業活性化を推進することに貢献した。



DESIGN VISION 2025 - Communication & Construction -

公益目的事業2

（デザインに係る人材の育成に関する事業）

1. インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター事業

東京ミッドタウン・デザインハブに設けられたインターナショナル・デザイン・リエゾンセンターでは、デザインハブ企画展関連セミナーのほか、国内外のデザイン関連機関やデザイン教育機関の事業の推進、各種のデザイン活動の促進、デザイン人材育成支援を目的とするセミナーやシンポジウム、ワークショップなどを展開している。

2025年度はリエゾンセンターの加盟機関にRoyal College of Artとフィンランドセンターが加わった。加盟機関関連企画として、3年目となるオーストラリア・Monash University, Art Design & Architectureのコミュニケーションデザイン学科による滞在製作が行われた。

リエゾンセンターの独自企画としては、デザイナー・ノンデザイナーの区別なく、仕事や生活にデザインを活かすための学び合いの場「JDPイナバデザインスクールトーキョー」を通年で開講。リエゾンセンターおよび都内各地で計21回の無料のデザイン塾を開講し、延べ160名が参加した。



JDPイナバデザインスクールトーキョー



JIDA医・工・デザイン連携研究部会トークイベント



山梨デザインセレクション表彰式

2025年度開催の主なセミナー、シンポジウム、ワークショップ

実施日	名称	実施主体
通年	JDPイナバデザインスクールトーキョー	JDP
4/11-13	JAGDAデザイン会議2025 Graphic Design Now	日本グラフィックデザイン協会
4月・9月12月・2月	FLAGSHIP DESIGN WORKSHOP、Bienséance「じっくりくる」デザイナー感覚から新しい価値を生み出すワークショップほか	ダイヤモンド社
5/23	「いのち輝く未来社会のデザイン 2025年大阪・関西万博から始まる未来に向けて」	公益社団法人商業施設技術団体連合会
6月、10月	Creative-LAB.プログラム他	一般社団法人ASIBA
9/28・11/9	Next Eco Design 2025 エコデザインワークショップ	日本インダストリアルデザイン協会
10/31	JAPAN FURNITURE SHOW by IFFT 2025	一般社団法人日本家具産業振興会
11/14	JIDA医・工・デザイン連携研究部会トークイベント「医療課題と伝えることの難しさ」	公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会 プロフェッション委員会 医・工・デザイン連携研究部会
11月、1-3月	TCL-多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム	多摩美術大学
12/6-7	障害×デザイン 学びの空間どう作る？共創シンポジウム	多摩美術大学 TUB
1月	Monash Design Study Tour, Japan「Tokyo is a planet」	Monash University
1/14	山梨デザインセレクション表彰式	山梨デザインセンター

2. グッドデザイン・ニューホープ賞事業

クリエイターを目指す大学・教育機関の学生及び卒業・修了後間もないクリエイターのデザインの作品・プロジェクト・研究を審査・顕彰することにより、新たなクリエイティブ人材の発掘とキャリア蓄積の支援を目的とした「グッドデザイン・ニューホープ賞」の第4回を開催した。齋藤精一審査委員長、倉本仁・永山祐子審査副委員長の他、以下の審査委員を迎え、審査を行なった。

[物のデザイン]

小西 哲哉（インダストリアルデザイナー）
田嶋 宏行（デザイナー 株式会社ジャクエツ）
廣川 玉枝（デザイナー）
渡辺 弘明（インダストリアルデザイナー）

[場のデザイン]

大島 芳彦（建築家・クリエイティブディレクター）
手塚 由比（建築家）

[情報のデザイン]

小西 利行（クリエイティブ・ディレクター）
藤田 佳子（アートディレクター、デザイナー 株式会社サン・アド）

[仕組みのデザイン]

飯石 藍（プロジェクトディレクター/都市デザイナー/編集者）
原田 祐馬（デザイナー）

2025年度実績

カテゴリー	応募数	受賞数
物のデザイン	278	39
場のデザイン	223	30
情報のデザイン	69	18
仕組みのデザイン	98	28
合計	668	115

2025年3月～8月にかけて応募を受け付け、全国の大学・専門学校・高専など、前年比22%増の152の学校から、前年比10%増加となる668件の応募が寄せられた。従来通り、関東と関西からの応募が多くを占めているものの、これら以外の各地域からの応募が増加した。

応募の地域ごとの学校数と増減

	2024	2025	増減率
関東	53	63	18.9%
関西	31	28	-9.7%
東海	13	17	30.8%
東北	9	8	-11.1%
甲信越	7	3	-57.1%
中国・四国	7	11	57.1%
九州・沖縄	6	14	133.3%
北陸	4	3	-25.0%
北海道	3	4	33.3%
総計	133	151	13.5%

9月26日の審査会で受賞作品115件を選定し、その中から各カテゴリーの上位2作品8件を「優秀賞」として選定した。12月20日に優秀賞8組のプレゼンテーション審査を公開で実施し、その中から最優秀賞1件を決定した。発表後、受賞祝賀会を開催し、受賞者・審査委員・大学教員・企業のデザイン部門関係者などで交流の場を設けた。受賞者プロモーションの一環として、2025年度グッドデザイン賞受賞展においても、全受賞作品をパネルで紹介した。さらに、2026年1月～4月にかけて、以下の受賞者向けプログラムを開催した。受賞者がデザイン業界の第一線で活躍する専門家から直接学び、交流できる機会を提供するとともに、受賞者同士の交流を深め、将来のコラボレーションや情報交換につながる人的ネットワークを構築する場を提供した。

2025年度ニューホープ賞 関連イベント

日時	件名
2025/11/1	受賞者交流会（参加者数 65名）
①2026/2/7 ②2026/3/7	デザイン・ワークショップ（講師：原田祐馬氏 参加者数 11名）
2026/2/12	パートナー・セッション 「LEGO® SERIOUS PLAY®を活用したワークショップ」 presented by コニカミノルタ（参加者数 12名）
2026/2/14	フォローアップ・ゼミ Vol.1（講師：2025年度審査委員 参加者数 12名）
2026/2/21	フォローアップ・ゼミ Vol.2（講師：2025年度審査委員 参加者数 5名）
2026/3/28	フォローアップ・ゼミ Vol.3（講師：2025年度審査委員 参加者数 9名）
2026/3/28	デザイン・セミナー FabCafe Kyoto（講師：倉本仁氏、田嶋 宏行氏、原田 祐馬氏 参加者数 30名）
2026/4/8	デザイン・セミナー（講師：齋藤精一氏 参加者数 17名）
2026/4/11	「デザインの現場」見学会 IKEBUKURO LIVING LOOP（講師：飯石 藍氏 参加者数 11名）

2026年3月15日には、全受賞作品を収録した受賞作品集を刊行した。また、2025年度より、本賞の持続的発展と次世代クリエイター支援の強化を目的とした「企業パートナー・プログラム」をスタートした。本プログラムは、企業から協賛を募り、若手クリエイターの育成支援および活動基盤の拡充に活用することを目的としている。協賛企業に対しては、将来有望な若手クリエイターとの接点創出および人材発掘の機会の提供を予定しており、デザイン人材育成を通じて産業界の発展に寄与する相互価値創造のプラットフォーム機能を強化するものとして位置づけている。

2025年度企業パートナー・プログラム参加企業名一覧

■パートナー：8社

株式会社ニコン	シャープ株式会社
セイコーエプソン株式会社	株式会社本田技術研究所
三菱電機株式会社	ヤマハ株式会社
株式会社LIXIL	株式会社リクルート

■プラチナ・パートナー：5社

コニカミノルタ株式会社

株式会社電通

パナソニック株式会社

株式会社日立製作所

富士フイルム株式会社



審査会



最終審査会



表彰式



受賞祝賀会



フォローアップゼミ



デザインの現場見学会

3. デザインに関する調査研究・情報発信事業

①デザイン組織KPI調査

国立大学法人一橋大学との間で、デザイン組織に関する調査研究分野で協働連携に係る覚書を締結し、2025年1月に企業内のデザイン部門・組織に関する調査研究での連携を開始した。この「デザイン組織 KPI」調査では、社内デザイン部門・組織をもつ国内企業を対象に、同組織の貢献を可視化することで、企業間で量的に比較検討するための主要指標（Key Performance Indicators: KPI）として特定することを目指している。

2025年度の第四次調査には、国内企業22社が参加した。2025年度の調査を含む過去4回分の調査結果の詳細な再分析によって、「提案力・情報提供」成分の水準が翌年のROEに対して有意に正の効果を及ぼすことが判明した。

②デザインに関する意識調査の実施

2025年12月に「デザインに関する意識調査」および「グッドデザイン賞認知率調査」を以下の通り実施した。調査結果は2026年度上半期中に公開予定である。

[日本国内]

調査対象：全国の15～69歳の男女

有効回答者数：2,100名

調査方法：インターネットアンケート調査（楽天インサイト）

[海外]

調査国・地域：韓国、台湾、香港、中国（北京、上海、深圳）、タイ

調査対象：当該地域の20歳以上の男女（男女別、20代・30代・40代以上、均等割付）

有効回答者数：各国・地域300名、中国各都市300名

調査方法：インターネットアンケート調査（楽天インサイト）

4.デザイン研究・デザイン振興助成事業

デザイン研究・デザイン振興の助成事業「デザイン助成プログラム」は、2024年12月より開始した。同プログラムは、パーパスの中で2030年までに実行する目標として掲げた「DESIGN INSTITUTE（デザインを探究する）」を構成する事業の一つとして、デザイン分野の調査研究への助成、日本国内におけるデザイン振興活動への助成を通じて、デザイン分野の研究をリードする人材や、デザインの力を活用した取り組みを広げる人材を育成することを目指している。2025年4月1日から3月31日まで、2025年度の助成対象者への助成を行い、期間中に中間ヒアリングを実施した。これらは2026年度に成果の報告を行う。

また、2026年度については、2025年11月12日から2026年1月9日までの期間に公募を行い、「デザイン研究」に15件、「デザイン振興」に21件の応募があり、審査により、「デザイン研究」2件、「デザイン振興」2件を助成対象として決定した。これらは2026年度中に研究・活動を行い、2027年度に成果の報告を行う予定である。

審査委員

デザイン研究：鷺田祐一 一橋大学大学院 経営管理研究科 教授

デザイン振興：渡邊誠介 長岡造形大学 造形学部 教授

2026年度デザイン助成プログラム助成対象一覧

[デザイン研究]

1. 日本企業におけるインハウスデザイン組織の進化とデザイン経営: DeNAを事例とした全社横断型デザイン組織の機能分析

研究代表者：中川 晃（芝浦工業大学 デザイン工学部 教授）

共同研究者：内海 京久（高知工科大学 経済・マネジメント学群 教授）

2. プロジェクトみかん 一業務委託組織における文化醸成と成長基盤の実証研究一

研究代表者：清川 英恵（株式会社etomoji 代表取締役）

[デザイン振興]

1. 秋田県角館樺細工における伝統産業活性化のためのデザイン経営の実践的研究

活動代表者：安積 伸（法政大学 デザイン工学部 システムデザイン学科 教授）

2. 地域デザインリサーチモデル「Local Research Lab 中津川」による、地域内古民家や公共施設を活用したプロトタイプ拠点創出とアクティベーション

活動団体：東海旅客鉄道株式会社

5. デザイン体験プログラム普及推進事業

パーパスの中で2030年までに実行する目標として掲げた「DESIGN PLAYGROUND（デザインで遊ぶ）」を構成する事業の一つとして、幼少期から10代中盤の成長期における子どもがデザインに触れる機会を創出するため、2024年度から新たにデザイン体験プログラム普及推進事業を開始し、小中学校における総合学習などの教育現場と協力しながらデザインに親しみ、生きる力として活用してもらうための取り組みを実施している。2025年はそうした取り組みのプロトタイプとなることも念頭に、東京都三鷹市および埼玉県松伏町の小学校と連携し、企業やデザイナーと協働で学校での授業づくりを行なった他、石川県加賀市教育委員会と連携して同委員会の教育ビジョンのビジュアルデザイン制作を担った。

BE THE PLAYER



「2026-2030 加賀市 教育ビジョン」

6. 寄附講座開設事業

①立教大学院における寄附講座「デザイン経営」の実施

立教大学ビジネスデザイン研究科「デザイン経営」MBA講座を2025年6月から7月にかけて連続14回開講した。経営と事業の創出にデザインを活かすための人材育成を目的に、グッドデザイン賞受賞のマネジャーやプロジェクトリーダー・企業や行政との協業実績があるデザイナーによる講義、企業デザインセンター視察などからなるカリキュラムを編成して提供した。



立教大学院の寄付講座

②宮城大学における寄附講座の実施

宮城大学事業構想学群価値創造デザイン学類の在校生をおもな対象に、「まち・企業・ひとが共に進化するための場 -Ginza Sony Park Projectのデザイン- (グッドデザインレクチャーvol.8)」を2025年12月18日に開講。ソニー企業株式会社代表取締役社長の永野大輔氏を講師に迎えた。



宮城大学の寄付講座

公益目的事業3

(優秀なデザインを展示・提案することにより、生活者に豊かさや潤いを与える事業)

1. 東京ミッドタウン・デザインハブ事業

日本デザイン振興会、日本グラフィックデザイン協会、多摩美術大学 TUBの3機関から構成されるデザイン情報の発信拠点・東京ミッドタウン・デザインハブでは、外部企画を含むギャラリースペースでの企画展示やワークショップの開催、東京ミッドタウンとの共催による「東京ミッドタウン・デザイン部」活動、国際デザイン・リエゾンセンターを活用した活動などを複合的に展開した。

①デザインハブ企画展示

2025年度は9本の企画展と恒例の夏のキッズワークショップを開催。合計来場者数は約58,689人となった。デザインハブ構成期間による合同展として、学生たちが大学等の教育機関で今どのようにデザインを学んでいるかを課題と作品を通じて知る「ゼミ展」を開催。今年度は海外の教育機関との共同プロジェクトを重点的に取り上げた。JDPの自主企画として、2023年に開催した「公民館のしあさってはデザインのしあさって!? ~ Work in progress」の第2弾となる社会教育とデザインの関係性に焦点を当てた企画「公民館とDesignは、なにを夢見たのか? ~雑談がうまれる場所と、そのためのDesignをめぐる~」を開催。特別展として東京イラストレーターソサエティによる作品展を初開催したほか、フィリピン大使館の主催による日比国交正常化70周年を記念する展覧会「フィリピンのココナッツ：生命の樹、イノベーションの種」等を開催した



ゼミ展2025 デザインの学び方を知る



「公民館とDesignは、なにを夢見たのか?」展

2025年度開催のデザインハブ 企画展示

会期	名称	実施主体	動員数
3/13-5/6	第113回企画展「はじめの一步から ひろがるデザイン展 - グッドデザイン賞2024フォーカス・イシュー -」	JDP	3/31以降 4,883
5/19-6/21	第114回企画展「ゼミ展2025 デザインの学び方を知る」	東京ミッドタウン・デザインハブ	4,783
6/27-8/7	第115回企画展「日本のグラフィックデザイン2025」	日本グラフィックデザイン協会	12,536
7/26-8/10	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズ・ワークショップ2025	東京ミッドタウン・デザインハブ	322
9/5-9/28	特別展「Tokyo Illustrators Society Presents Illustration Works 179人のイラストレーターによるベストワーク展」	一般社団法人東京イラストレーターズ・ソサエティ (TIS)	2,201
10/3-10/26	第116回企画展「JAGDA Exhibition 2025」	日本グラフィックデザイン協会	4,810
11/1-5	2025年度グッドデザイン賞受賞展	JDP	8,657
12/1-1/5	第117回企画展「植える WELL-BEING : Our tools & methods for well-being」	多摩美術大学 TUB	4,517
1/19-1/30	特別展「フィリピンのココナッツ：生命の樹、イノベーションの種」	フィリピン共和国大使館 貿易投資部	2,251
2/16-3/16	第118回企画展「公民館とDesignは、なにを夢見たのか？～雑談がうまれる場所と、そのためのDesignをめぐって～」	JDP	6,599

②ワークショップ企画

東京ミッドタウン・デザインハブでは毎夏、楽しくデザインを体験できる子供向けのワークショップ企画「キッズデザインワークショップ」を開催している。2025年度は計17企画を実施、延べ322名が参加した。

2025年度実施のキッズワークショップ

実施日	名称	実施主体
7月26日 27日	夏休み！親子de わくわくワークショップ「あったらいいな、こんな店」	JCD 一般社団法人日本商環境デザイン協会
7月30日	根っこワールド～きみだけの植物をかたちにしてみよう	多摩美術大学生涯学習センター
7月31日	オリジナルネイルをデザインしよう Meet-up Canon Design for Kids	キヤノン株式会社 総合デザインセンター
7月31 日、8月1 日	「リミックス」ラボ～絵×音 かいて、きこう	パナソニック株式会社 デザイン本部 FUTURE LIFE FACTORY
8月1日	キャラクターにいのちを吹き込め！～インタラクティブデザインをプチ体験～	株式会社ホロノクリエイト
8月2日	夏だ！竹うちわを作ろう！	株式会社オープンハウス+ 一般社団法人 Spedagi Japan
8月2日	親子で未来の公園の遊具をデザインしよう	加倉井美香、山下亮 (株式会社Visualise)
8月3日	端切れのぬいぐるみづくり	and sewing
8月3日	紙なの？皮なの？新素材「鹿皮紙」を使って鹿子太鼓を作り、世界で一つの音を届けるワークショップ	鹿皮紙プロジェクトxshujiworks手縫い 革教室
8月5日	ワクワク作ってPOSCAでお絵かき！ダンボールのぼうしづくり&図工船であそぼう！	三菱鉛筆株式会社+アトリエヤマダ株式会社
8月5日	型に流して！つついて！ オリジナル石鹸+ソーブディッシュを作ろう！	昭和女子大学環境デザイン学科三星安澄 研究室
8月6日	錫（すず）リボンに刻印してネームタグ（チャーム）をつくろう【親子企画】	諸岡宜永（協賛：佐々木半田工業株式会社）
8月8日	空間デザインってなに？暑い夏でも涼しい気分になれる場所をつくろう！	一般社団法人日本空間デザイン協会

8月8日	端材とネジを使ったキーホルダー制作	公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会
8月9日	からだ動かして、遊んで、つくろう！～偶然がつくる世界～	武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科研究室+OGチーム
8月9日	越前和紙でつくる立体工作	株式会社杉原商店+芝浦工業大学デザイン工学科橋田研究室
8月10日	作って、遊べる！親子で楽しむ電車ワークショップ！！	公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会（JIDA）
8月10日	アートx虫！一真夏の小さな冒険ー	アサコラ♡キッズ♡アトリエとARIC



夏休み！親子de わくわくワークショップ



キャラクターにいのちを吹き込め！



空間デザインってなに？

③東京ミッドタウン・デザイン部

東京ミッドタウン・デザイン部は東京ミッドタウンとの共催による活動で、当会は企画・運営と事務局を担っている。2017年から始まった本活動は、東京ミッドタウンをはじめとする六本木エリアに仕事や暮らしの場を持つ方や来街者を対象に ①クリエイティブな視点を仕事や生活に活かす ②デザインを切り口としたサードプレイスの提供 を目的としたギャラリーツアーやトーク・ワークショップを開催。2025年度はギャラリーツアーおよび対面イベントを17イベント実施した。リエゾンセンターご利用を除く参加者の合計は延べ約183名。

2019年より開室している「リエゾンセンター・ライブラリー」は、JDPの蔵書や東京ミッドタウンが所有する書籍を活用してワーカーや施設来館者に対して開室している、無料でデザイン関連書籍に触れることができる不定期のデザインライブラリー。JDP蔵書やグッドデザイン賞審査委員の著書の他、今年度は各出版社よりデザイン関連書籍の新刊84冊を献本いただきライブラリーで紹介した。年間90日間開室し、4,665名が来室した。新刊のテーマを深掘りする企画として実施しているブックイベントは、5件実施、計243名が参加した。

2025年度東京ミッドタウン・デザイン部開催イベント（全17企画）+ブックイベント（5）

ギャラリー等ツアー	
実施日	名称
10/2	「TOTOギャラリー・間「新しい建築の当事者たち」展」ギャラリーツアー
8/28	多摩美術大学 TUB企画展「in 編集部：世界はもっと面白く見える」ギャラリーツアー
12/19	東京ミッドタウン・デザインハブ 企画展「植える WELL-BEING：Our tools & methods for well-being」展ギャラリーツアー
26/1/13	TOTOギャラリー・間「マリーナ・タバサム・アーキテクツ：People Place Poiesis」展ギャラリーツアー
3/27	ミッドタウンの桜と緑を楽しむツアー2026
折詰め会	
4/18	第152回 みんなが喜ぶ 地域AHAデザイン
5/30	第153回 CO2は“ゴミ”じゃない？資源として捉え直す未来社会ワークショップ

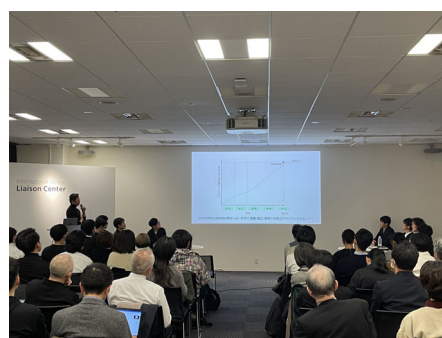
6/18	第154回 わたしの選択、あの人の迷い。ちょっと立ち止まってミドルエイジの先を考える会
7/18	第155回 “忘れられない”映画。だら見卒業のための映画を見る楽しさを再発見する会
8/29	第156回 コロナ動かせ！環境と習慣をハックして心の夏バテを乗り越えるアイデアを持ち寄る会
9/29	第157回 感情×AI、AIネイティブ時代のわたしの未来への向き合い方について語る会
10/28	第158回 無限コンテンツ時代をどう生きるか
11/11	第159回 気づきとは何か？感性を洗い出す
12/9	第160回 振り返り・積読本をくずす会
1/14	第161回 美味しいとは何か？味覚を俯瞰する
2/6	第162回 毎日の最高の朝の香りをデザインする
3/16	第163回 少子化を「好き勝手」語る会～世界・社会・個人を行き来しながら、医療の現場の方と考える～
リエゾンセンターライブラリーのブックイベント	
8/18	井上岳一 × 緒方壽人「テクノロジーとコンヴィヴィアルに生きる方法 ～デザインとクリエイティブの現在地～」
11/17	「らしさ」の正体を探してー 建築とグラフィックが会おう思考の現場（木住野彰悟 × 芦沢啓治）
12/17	ディテール246号 サークュラーデザイン特集 刊行記念イベント「サーキュラーデザインの実践」
1/13	書籍『コモンズの再発明』発刊記念トーク 丑田俊輔（シェアビレッジ株式会社）× 井上岳一（日本総合研究所）「みんなでつくるコンヴィヴィアルな未来」
2/3	『自然資本とデザイン』出版記念トーク「自然資本を生かすデザインの方法論 ～自然と人間のコンヴィヴィアルを目指して～」



「新しい建築の当事者たち」展ギャラリーツアー



ミッドタウンの桜と緑を楽しむツアー

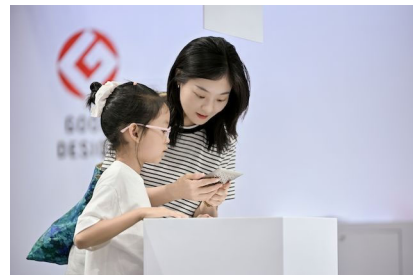


ブックイベント：「サーキュラーデザインの実践」

2. 海外展示会事業

2025年9月18日から21日にかけて、中国・深圳にて開催された「DESIGN SHENZHEN 2025」において、GOOD DESIGN AWARD特別展を出展した。会場は深圳会展中心（福田）で、グッドデザイン賞の「BEST 100」受賞対象14点を紹介した。展示面積は約120㎡で、展示品エリア、年鑑閲覧エリア、インフォメーションカウンターを設け、グッドデザイン賞の理念と受賞対象の価値を来場者に伝えた。会期中、グッドデザイン賞展示エリアには推計3万人超が来場した。来場者は中国国内外のデザイン事務所、製造企業、メディア、大学関係者、学生、一般消費者など幅広く、日本のデザインに対する関心と理解を深めた。また小型食器洗い機やおろし金など、生活文化や機能性を背景にした展示品には特に反響があり、SNSや専門メディアでの発信にもつながった。深圳での継続的な出展を通じて、中国におけるグッドデザイン賞の認知向上と、日中デザイン交流の基盤形成に資する機会となった。

DESIGN SHENZHEN 2025の様子
事-P.22



収益事業 1

(商標権 (Gマーク) の使用促進に関する事業)

1. Gマーク使用促進施策の実施

Gマーク使用に関するオンラインセミナーを実施し、YouTubeで配信。Gマークの申込方法や使用方法について説明するとともに、受賞企業にも登壇してもらい、どのようにGマークを活用しているのかについて、具体的な事例を紹介しながら、その魅力や可能性を紹介した。また、Gマーク使用を促進するわかりやすい活用方法のパンフレットを新規作成し、Gマーク使用例、使用の効果、使用者の声などをまとめるとともに、申込への導線となるコンテンツとして整備した。



2. GOOD DESIGN STORE支援事業

グッドデザイン賞受賞商品の販売を通じた広報活動として野原グループ株式会社の経営による「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」と連携し、同ストアを通して受賞商品販売を通じたグッドデザイン賞のプロモーションを行なっている。丸の内の常設店舗では売上の4割を訪日外国人が牽引する。東京以外でのPop-up出店も積極的に推進しており、Pop-up用のプロモーションツールの開発を行った。

常設：

GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA (KITTE 丸の内)

Pop-Up：

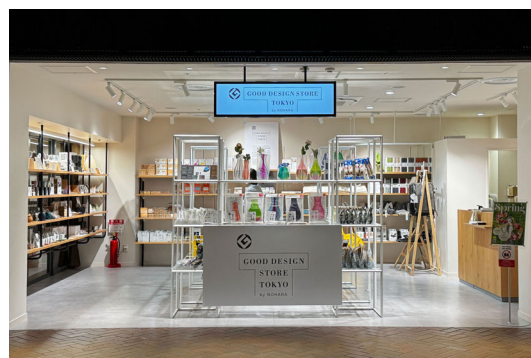
さくらの百貨店 (北上店) 4月～6月

小倉井筒屋 10月

鶴屋百貨店 (熊本) 12月

GOOD DESIGN EXHIBITION2024 (東京ミッドタウン) 11月

福岡天神地下街 3月～4月



福岡天神地下街 Pop-Up

収益事業 2

(受託に関する事業)

東京ビジネスデザインアワード

東京ビジネスデザインアワード（TBDA）は、東京都内中小企業が有する製造加工技術や素材などを「テーマ」として募集して、それらを軸とする新たなビジネスプランやブランディングの提案を全国のデザイナーから募り、双方のマッチングにより各社の新規事業を実現するコンペティションである。当会は主催の東京都とともに2011年度から本事業の企画運営を担っている。

2025年度は11社より応募があり、審査の結果8件のテーマを選出して、全国のデザイナーに対して新規用途開発を軸としたデザイン提案を募集、127件の提案が寄せられた。その中から企業とのマッチングを通じた事業化が見込まれる提案8件を「テーマ賞」として選出（うち最優秀賞1件・優秀賞2件を選出）し、製品開発・知財戦略・デザイン契約、広報計画、販路開拓などに関する支援を実施している。なお、2025年度より産業財産権・契約に要する取得費用の助成と、支援継続期間の三か年への延長により、事業化のさらなる促進が期待される。

最優秀賞（1件）

提案：「体験をコレクションする」サービスの開発とブランド展開

提案者：榎本清孝、山田奈津子

企業テーマ：個別化された情報を正確安全に届けられる、印字とフィルム圧着書面

企業名：昭和印刷株式会社

優秀賞（2件）

提案：生分解性樹脂と精密金型技術を活用した人を自然へ導くギアの提案

提案者：三谷悠人、鍋田知希

企業テーマ：精密金型メーカーが誇る高精度なバイオプラスチック射出成形技術

企業名：日進精機株式会社

提案：加工精度を軸とした新たな事業モデルの提案

提案者：平野北斗、柳沢駿、明里圭修

企業テーマ：デジタルの精度と手仕事の技量が共存する加工・生産体制

企業名：株式会社サルトル

審査委員

秋山かおり（プロダクトデザイナー）審査委員長

谷口靖太郎（デザインエンジニア / ディレクター）

日高一樹（特定訴訟代理人・弁理士 / デザインストラテジスト）

坊垣佳奈（株式会社マクアケ共同創業者 / 顧問）

宮崎晃吉（建築家）

八木 彩（アートディレクター / クリエイティブディレクター）

柳沼周子（バイヤー）



TOKYO DESIGN
BUSINESS DESIGN AWARD



「体験をコレクションする」サービスの開発とブランド展開



生分解性樹脂と精密金型技術を活用した人を自然へ導くギアの提案



加工精度を軸とした新たな事業モデルの提案

総務・管理業務 編

2025（令和 7）年度事業報告（総務・管理関係業務）

1. 会務の実施(役員会等の開催)について

(1)評議員会

回	日時・場所	議題等
第 37 回	2025 年 6 月 20 日(金) 15:30-17:00 対面及び WEB 併用会議 主会場:インターナショナル・ デザイン・リエゾンセンター	議題 ・2024(令和 6)年度決算報告書(案)について ・理事改選(案)について 報告事項 ・2024(令和 6)年度事業報告書について ・今年度のグッドデザイン賞事業現況報告について その他
第 38 回	2026 年 3 月 23 日(月) 15:30-17:00 対面及び WEB 併用会議 主会場: インターナショナル・デザイン・ リエゾンセンター	議題 ・2026(令和 8)年度事業計画書(案)について ・2026(令和 8)年度収支予算書(案)について ・規程改正(案)について デザイン研究・デザイン振興助成事業規程 報告事項 ・2026 年度グッドデザイン賞審査委員委嘱、グッドデザイン・ロングライフデザイン賞審査委員委嘱並びにグッドデザイン・ニューホープ賞審査委員委嘱について その他

(2)理事会

回	日時・場所	議題等
第 53 回	2025 年 6 月 5 日(木) 15:30-17:20 対面及び WEB 併用会議 主会場: インターナショナル・デザイン・ リエゾンセンター	議題 ・2024(令和 6)年度事業報告書(案)について ・2024(令和 6)年度決算報告書(案)について ・評議員会の招集(案)について 報告事項 ・2025 年度のグッドデザイン賞事業の現況について ・グッドデザイン賞認知率調査結果について ・理事改選について ・常勤役員の兼業状況について その他

回	日時・場所	議題等
第 54 回 (臨時)	2025 年 6 月 20 日(金) 17:15-17:40 対面及び WEB 併用会議 主会場: 東京ミッドタウン カンファレンス ルーム 3	議題 ・代表理事及び業務執行理事の選定(案)について ・グッドデザイン・フェロー称号の贈呈候補者(案)について その他
第 55 回	2025 年 12 月 11 日(木) 16:30-18:00 対面及び WEB 併用会議 主会場: インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター	議題 ・2025 年度事業進捗状況について ・次期グッドデザイン賞審査委員長及び副委員長(案)について ・規程改正(案)について (1)職員の再雇用制度に関する規程 (2)育児・介護休業規程 報告事項 ・税務調査(源泉所得税)について ・「WDO等を巡る国際的なデザインの動き」について ・JDP国際情報アドバイザー 太刀川 英輔 氏 その他
第 56 回	2026 年 3 月 5 日(木) 15:30-17:00 対面及び WEB 併用会議 主会場: インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター	議題 ・2026(令和 8)年度事業計画書(案)について 2026(令和 8)年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞開催要綱(案)を含む ・2026 年度グッドデザイン賞審査委員委嘱(案)、グッドデザイン・ロングライフデザイン賞審査委員委嘱(案)並びにグッドデザイン・ニューホープ賞審査委員委嘱(案)について ・2026(令和 8)年度収支予算書(案)について ・規程改正(案)について デザイン研究・デザイン振興助成事業規程 ・評議員会の招集(案)について その他

(3)会計監査等

①監事監査:2025 年 6 月 2 日(月)

目的: 2024(令和 6)年度事業報告書(案)、2024(令和 6)年度決算報告書(案)

②監査法人監査:EY 新日本有限責任監査法人会計監査

(期末監査)

2025 年 5 月 10 日(土)、16 日(金)、22 日(木)、23 日(金)、26 日(月)、27 日(火)

当会会議室

目的:2024(令和 6)年度決算処理

③監査法人監査:太陽有限責任監査法人会計監査

(期中監査)

2026 年 2 月 12 日(木)、13 日(金)、3 月 11 日(水)、4 月 1 日(水)

当会会議室

目的: 2025(令和 7)年度会計処理

2. 賛助会員の現状について

2025 年度末の賛助会員及び情報会員数は 169。(会費は広く公益事業に役立てている。)
近年は、会員企業等の経費削減や組織改編により会員数が漸減傾向にあり、2025 年度は 5 団体より退会届が提出されたが、4 団体より新規加入の申し込みがあった。

3. 後援、協賛事業について

2025 年度に当会が後援並びに協賛、協力の名義を提供した外部企画は、37 団体延べ 44 件に協力している。

(1) 供与先内訳

自治体及び その関連機関	デザイン専門団体	業界団体	民間企業	教育機関	海外機関	任意団体	賛助会員
12	6	7	7	1	4	2	5

(2) 事業内訳

デザイン展	見本市	デザインコンペ	セミナー・ワークショップ等	会議	その他
11	5	11	13	4	0

4. グッドデザイン・フェローについて

第 54 回理事会の議決により、下記 2 名に称号を贈呈(敬称略)
小川理子、村田智明

5. 業務管理・調整について(規程、内規、業務調整等の実施)

(1) 各種規程・内規等の新設及び改正

年月日	規程等	実施事項	概要
2025 年 12 月 11 日	職員の再雇用制度に関する規程 育児・介護休業規程	改 正	再雇用対象者の基準を削除
		改 正	柔軟な働き方を実現するための措置を新規追加
2026 年 3 月 23 日	グッドデザイン・ロングライフデザイン賞開催要綱	改 正	受賞の取り消しの対象を修正
	デザイン研究・デザイン振興助成事業規程	改 正	申請者の募集及び資格を拡大

(2)各種業務調整

2023 年 10 月、今後の事業を展開するに当たって目指すべき方向性を示すパーパス(デザインを、一人ひとりの力に。)を策定するとともに、2030 年までに実行する事業方針として

- ・DESIGN PLAYGROUND
- ・DESIGN INSTITUTE
- ・DESIGN from JAPAN

という3つを打ち出し、具体的なアクションプランを定めた。

これまで半年ごとに、役職員が参加するワークショップを行い、職員への浸透を図ってきた。
2025 年度は、テーマを設け、ディスカッションした。

開催日：2025 年 7 月 9 日(水)

テーマ：デザインへの関心の向上を考える

目 的：「デザイン関心を高める」というテーマについて考え、対策を検討する

内 容：2025 年度認知度調査の結果を分析し、デザインへの関心を高める方法を検討

結 果：グループごとに案を作成した

開催日：2025 年 12 月 17 日(水)

テーマ：グッドデザイン賞 70 周年を考える

目 的：70 周年を迎えるにあたり、個人としてできることとチームとしてできることを検討する

内 容：期間中に「すぐできること、チャレンジングなこと、協力者がいればできること」の 3 パターンについて、「社内・社外・その他」の環境別に何ができるか案を出し、その内容についてグループで話し合った

結 果：個人で実施する案を作成した

(役員研修、職員研修)

2025 年度は、下記の職員研修を実施した。役員の研修は実施なし。

日 時：2026 年 1 月 15 日(木)10:00-11:00

内 容：取引適正化法、受託中小企業振興法 説明会

1. 取引適正化法(40 分)

公正取引委員会 事務総局 経済取引局 取引部 企業取引課
課長補佐(指導担当) 石井 悟 氏

2. 受託中小企業振興法(15 分)

中小企業庁 事業環境部 取引課
課長補佐(法令担当) 高橋 諄 氏

(特許庁との人事交流)

官民交流を活用し、特許庁意匠審査官 1 名(2025 年度から 2 年間)の交流受入れを実施。

(役職員の健康への取組み)

2025 年 10 月より、産業医による健康に関する講話を聴く機会を設け、その季節に応じたテーマで健康への意識付けを行った。

開催日：2025 年 10 月 27 日(月)

テーマ：インフルエンザ～予防と対応～

開催日：2025 年 12 月 8 日(月)

テーマ：ビジネスパーソンの飲酒習慣、冬場の感染症について

開催日：2026年2月16日(月)

テーマ：花粉症対策について

開催日：2026年3月26日(木)

テーマ：眼の健康(ドライアイ)

6. 行政当局等による監査、立入検査等について

麻布税務署による税務調査

(1)実施概要

- ①調査日時：2025年8月27日(水)及び28日(木)2日間
- ②調査場所：公益財団法人日本デザイン振興会本部
- ③調査官：法人課税第4部門上席国税調査官他
- ④調査対象：2021年度～2024年度までの4年間分

(2)調査後の指摘事項

- ①退職者への記念品現金支給分は、退職所得として追加課税。
- ②グッドデザイン賞海外審査員(タイ審査員)は、租税条約上、源泉所得課税対象のため、追加課税。(税務調査実施後翌週の指摘事項)

(3)当会の対応

- ①追加徴税は納税。
- ②退職者への記念品は現金支給を行わないよう運用を徹底するとともに、タイ審査員の謝金のみ源泉徴収税を徴収。
- ③税務調査の結果及び当会の対応を2025年12月11日理事会へ報告。

7. 資産管理の現状

(1)保有資産

今年度は、新規購入債券が1本、入替による売却が4本・購入が2本。評価額は、前年度末に対して、基本財産・特定資産・投資有価証券ともに減少した。運用利息は、前年度に対し増加した。

(2)基本財産・特定資産の構成割合と評価額・運用利息

	資産割合			評価額(円) (3.31.現在)	利息(円) (年間)
	預金	仕組債	国債・地方債・社債等		
2021年度	3.3%	5.9%	90.8%	1,492,527,410	21,438,589
2022年度	3.5%	6.0%	90.5%	1,408,956,150	20,904,977
2023年度	11.0%	5.9%	83.1%	1,350,793,170	20,271,643
2024年度	8.2%	19.4%	72.4%	1,256,706,600	26,327,931
2025年度	9.0%	43.0%	48.0%	1,134,426,160	40,715,014

8. 国内外におけるGマーク関連商標登録の現状

商品分野における「G マーク」商標登録に加え、国外の役務分野における「G マーク」商標登録に向けた方針を継続した。

(1)国内

2025 年度に更新を迎える国内登録商標は無かった。

(2)海外

- ①台湾「G マーク」商標(登録番号:第 017229851 号)の登録期間満了を迎えたため、10 年間の登録更新手続きを行った。
- ②タイ「GOOD DESIGN STORE」商標(登録番号:第 171111387 号)の登録期間満了を迎えたため、10 年間の登録更新手続きを行った。
- ③2020 年 10 月に海外 10 か国・地域において申請していた、第 35 類及び第 42 類における「G マークとロゴ GOOD DESIGN」の商標出願は、現在もタイにおいて審査継続中。アメリカでは 42 類のみ登録されたため、出願商標の構成要素を増やし、「Gマークとロゴ GOOD DESIGN AWARD」を 35 類の登録に向けて出願した。過去の状況は、2021 年 9 月にトルコ、ドイツ、シンガポール、香港、台湾において登録、2022 年 3 月にインド登録断念、2022 年 8 月にインドネシア、2022 年 10 月に韓国にて登録済み。
- ④2014 年 7 月にインドへ申請していた「G マーク」証明商標(26 区分に対して申請)に対し、2023 年度中に再審査のための第二次審査報告書への回答を提出したが、2025 年度内に動きはなく、現在も審査継続中。

9. 業務効率化、DXの推進

2023 年度に策定した IT 中期計画(2023 年～2025 年の 3 か年計画)に沿って、業務効率向上、コンプライアンス向上、セキュリティ強化、IT インフラ安定化、IT-BCP 対応等を着実に実施し、計画した施策の殆どを完了した。

このため 3 か年の IT 中期計画の策定は一旦やめ、2025 年度以降は、IT 中期計画で整備した環境をベースに、必要な施策を実行するとともに、IT 監査、規程見直し等、IT マネジメント関連の強化を進めることとしている。

2025 年度は、既存の IT インフラをベースに、社内ネットワークへのアクセス認証強化、標的型メールの訓練、法人契約の安全性の高い AI サービス導入等の施策を実施した。

しかし、セキュリティ診断および IT 自己監査の試行を延期したため、2026 年度に施行を完了したいと考える。

【2025 年度 活動実績】

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
電話応答業務安定運用定着化(2次審査会時対応確認)														
業務改善	ワークフロー追加検討(報酬支払先登録等)													
	ノーコード・ローコードツール導入検討							法人契約AIの導入						
セキュリティ強化	Box IPアドレス制限拡大 検討							Box IPアドレス制限拡大 設定・適用(影響大のため保留)						
	社内LAN SSID更新(Bayern_2→ginga)							MACアドレス制限 設定・適用						
	セキュリティ診断計画・実施(2026年度に延期)							診断結果に対する施策検討(2026年度に延期)						
ガバナンス・コンプライアンス	IT関連規程 再見直し(2 規程見直し)													
	IT資産管理運用確立(SKYSEA活用)													
	IT関連規程類再見直し							IT自己監査準備(未実施)						
	利便性、効率性、安全性維持・向上(サイバーリスク対応環境、IT資産管理環境維持)													
	教育・訓練(セキュリティ、BCP等)													
	資料整理、マニュアル整備、後任探索、委託可能パートナー探索等													